



郵政産業ユニオン TOKYO・NEWS

● 発行 ●
郵政産業労働者ユニオン
東京地方本部
発行責任者 田中 孝史
〒104-0031
中央区京橋 3-6-3
京橋通郵便局 5F

内部留保を賃上げにまわせ

私たちに寄せられている切実な声

大幅な賃金引き上げを求めるたたかいが始まっています。都内の郵便局で働いている多くの人から賃金引き上げ、働き続けられる労働環境の改善を求める声が郵政産業ユニオンに寄せられています。その声を一部紹介します。

A 「給料日まであと1週間以上あるけども、残金が少なくなっているのでもうやっとな生活していくか日々悩みの種です。毎日大変な仕事をしているのだから賃金をもっと上げてほしい」

B 「年間の一時金が下がったままだし、賃上げだってされてない。3年前に若干賃上げされたけども人事・給与制度の改悪で俺たちの年代は減給保障でゼロ。これを何とかしてほしい」

C 「毎日の食費を1日50

0円から1000円以内に抑えている。そのために朝と昼を一緒にして1日2食にしている。年金、健保、税金の天引きが年々増えているから自由に使えるお金が少ない。とにかく大幅な賃上げをしてほしい」

D 「正社員への登用があまりにも少ないので、このままいつても正社員になれるかどうか分からない。欠員で仕事が増えつつあるし、まとまった休みもとれないことを思うと、時給の高い

ところへの転職も考えています。とにかく時給を上げてほしい」

E 「以前よりも仕事がきつくなっている割には時給が低いのもっと上げてほしい。全国最低賃金の引き上げと共に、郵政の最低賃金を1200円にしてほしい」

F 「出勤すれば残業になります。定時で帰るのは年間を

通じて何日あるだろうか。何日もないし、お盆も正月も休めないまま一年間働きっぱなし。これってオカシイ。適切な人員を配置してほしい」等です。

こうした声をふまえ郵政産業ユニオンは、春闘を勝利させるために全力を挙げています。皆さん、一緒に頑張りましょう。

労働法制の改悪反対

2月26日、国会前に全労連、全労協など幅広い労働組合でつくる共同アクションに150人が参加して「過労死許すな」「裁量労働拡大するな」とコール。「8時間働けば生活できる社会」を実現しよう。

